



人的資本開示ワークショップ開催報告

2025年2月12日(水)、株式会社宝印刷D&IR研究所は、アデコ株式会社と共同で、人的資本開示に関する招待制ワークショップを開催しました。本ワークショップは、人的資本経営に関わる人事セクションと、経営企画セクションとの“連携”が課題となっている中で、両セクションを集めた議論の場をつくることで、企業価値向上に資する人的資本開示への理解を深めてもらう位置づけとして、9社17人をお招きしました。

2023年3月期から有価証券報告書での開示が義務化されたことにより、企業の情報発信において人的資本の位置づけがより明確になりながらも、現状では「開示のための開示」にとどまるケースも少なくなく、本質的な人的資本経営の実践には、経営戦略と人的資本施策の連携が不可欠となっています。

本ワークショップでは、他社の経営企画・人事担当者と意見交換を行いながら、価値創造ストーリーにつながる人的資本開示について活発な議論が交わされました。

ワークショップに先立ち、宝印刷D&IR研究所 ESG/統合報告研究室 多田尋一主任研究員による解説が行われました。多田氏は、人的資本開示のトレンドについて、「無形資産の重要性の高まり」が企業価値評価の主軸になりつつある現状を説明しました。

さらに、投資家の意識と企業側のギャップについても言及し、「企業は設備投資を重視する傾向があるが、投資家は人的資本への投資を重視している」と指摘。人的資本開示が企業の持続的成長において不可欠であることを強調しました。



CHROになって ミッションをクリアせよ

続いて、アデコ コンサルティング部 人的資本経営グループ シニアマネージャーの吉水 文哲氏より、ワークショップの進行方法について説明がありました。

本ワークショップでは、参加者が「企業のCHRO（最高人事責任者）」の立場となり、事前に設定された架空の会社を舞台に、人的資本の強化に向けた打ち手をどう企業価値につなげていくかを議論するワークを実施しました。

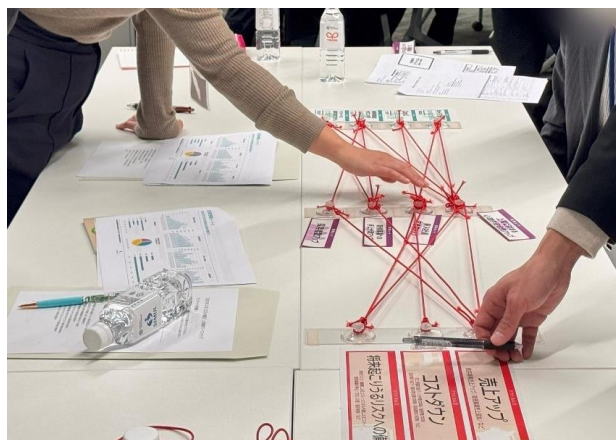
現在の職務が人事と経営企画セクションである参加者が4テーブルに分かれ、設定資料を読み込みつつ、それぞれの自己紹介で打ち解けあった後、当社にとってどのような施策が有効なのかについて、熱のこもった議論が交わされました。

各テーブルでの議論を経て、それぞれの代表者1名が、2分間のプレゼンの中で、最も事業にインパクトを与える要素、重要と思われるケースを発表しました。

ワークショップを終えて、吉水氏は、「課題解決のための施策と、将来的な成長を促す施策のバランスが重要」と述べ、単発の施策ではなく、企業全体の価値創造プロセスの一環として位置づけることが求められると語りました。

リターンを説明できる 人的資本投資を

ワークショップの総評として、多田氏より人的資本開示において「インプット・アウトプット・アウトカムを意識した説明」が重要であると指摘しました。特に、人的資本への投資とそのリターンを明確にし、経営戦略と整合性のある形で開示を行うことが、投資家との対話において鍵となると述べました。



閉会にあたって、宝印刷D&IR研究所社長の鎌田 浩嗣氏より「投資家への人的資本開示のあり方が、今後の企業経営において極めて重要な要素となる」と述べ、今回のワークショップの成果を社内に持ち帰り、活発な議論を続けることの意義を強調しました。

ご参加いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。宝印刷D&IR研究所では、今後もこうした制度開示・任意開示の垣根を越えて有益な情報を得られるセミナーを様々な手段を通じて開催してまいります。

【参加者の声】

・有価証券報告書におけるサステナビリティ開示の強化を検討しており、人的資本に関する投資家などの外部へのアピールをもっとする必要があるため今回参加いたしました。人的資本の開示の仕方がわからなかったので、伝わる形で開示をするヒントを得ることができました。